

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 25 日現在

機関番号：12601

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2022～2023

課題番号：22K20072

研究課題名（和文）Merging Nature and Nation: Transdisciplinary Ethnography of the Kachin National Movement and Chinese Natural-Resource Economy

研究課題名（英文）Merging Nature and Nation: Transdisciplinary Ethnography of the Kachin National Movement and Chinese Natural-Resource Economy

研究代表者

K I I K L A U R (Kiik, Laur)

東京大学・東京カレッジ・特任研究員

研究者番号：00964149

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,000,000円

研究成果の概要（和文）：このプロジェクトは、トランスディシプリナリーな民族誌的アプローチが、地球環境危機、高まるナショナリズム、中国の台頭の間の相互作用を明らかにできることを示しました。それは、戦争で荒廃したビルマ（ミャンマー）、中国、インドの間に位置するカチン族の地域において、このような関係を示しました。例えば、論争の的となっているミツソン・メガダム計画を研究する際、この調査はカチン族と中国側との現地での長い歴史的な遭遇を明らかにしましたが、その他の地元の民族や宗教的な関係者も含まれていました。査読付きの学術誌に3つの原稿が掲載される予定であり、さらに3つの原稿を提出準備中です。

研究成果の学術的意義や社会的意義

この研究の目的は、二つの質問に答えることでした。ブルマのカチン族の民族的な国づくりの闘いが、なぜ中国の現地の自然利用プロジェクトとこれほどまでに絡み合ってしまったのか？また自然をめぐる闘いと国家をめぐる闘いについて、どちらか一方に還元することなく、民族誌的にどのように記述するか？

研究成果の概要（英文）：This project showed how a transdisciplinary ethnographic approach can reveal interactions between the global environmental crisis, surging nationalism, and China's rise. It showed such connections in the ethnic Kachin region between war-torn Burma (Myanmar), China, and India. For example, when studying the controversial Myitson mega-dam project, this research revealed the long history of on-the-ground encounters between Kachin and Chinese sides, but also other local ethnic and religious actors. Three manuscripts have been accepted for publication in peer-reviewed journals; Prepared three more manuscripts to be submitted.

研究分野：Asian Studies

キーワード：Kachin Burma Myanmar China

1. 研究開始当初の背景

地球環境危機、急増するナショナリズム、中国の台頭はそれぞれ私たちの世界を変えています。

しかし、それらはどのように結びついているのでしょうか？これら3つの力の相互作用が、世界中の最も緊急な問題のいくつかを形作っていますが、研究はそれらを別々の学問分野で分離されたものとして分析する傾向があります。私は、中国とインドがミャンマーの長い戦争に接する広大で十分に研究されていない地域で、これらの相互作用を探求しています。

このプロジェクトは、2010年からのカチン族地域での研究経験に基づいています。

2. 研究の目的

この研究の目的は、二つの質問に答えることでした。

ブルマのカチン族の民族的な国づくりの闘いが、なぜ中国の現地の自然利用プロジェクトとこれほどまでに絡み合ってしまったのか？

また自然をめぐる闘いと国家をめぐる闘いについて、どちらか一方に還元することなく、民族誌的にどのように記述するか？

3. 研究の方法

この研究の主な方法は、長時間の半構造化インタビューを含む民族誌的フィールドワークである。

この研究は、社会人類学、自然保護学、開発・環境学、地理学、民族政治学、国際政治学の架け橋となるものである。

4 . 研究成果

このプロジェクトは、トランスディシプリナリーな民族誌的アプローチが、地球環境危機、高まるナショナリズム、中国の台頭の間の相互作用を明らかにできることを示しました。

それは、戦争で荒廃したビルマ（ミャンマー）、中国、インドの間に位置するカチン族の地域において、このような関係を示しました。

主なケーススタディはミッソングダム論争です。

ビルマ北部の崇拜される川の合流点を水没させる運命にあったこのビルマと中国の水力発電メガプロジェクトは、全国的な公の抗議を引き起こしました。ビルマの大統領は 2011 年に一方的に建設を中止し、当時の政治改革プロセスの始まりを告げ、中国とビルマの関係に継続的な緊張を生み出しました。この研究は 20 年間の歴史を通じて論争を調査します。人々の個人的な経験を探求し、地元の村人、宗教指導者、中国企業との交渉など、多様な出合いを分析します。

重要な文献はミッソンのケースを地政学やエネルギー政策の観点から探求してきましたが、この研究はカチン、中国、ビルマ、その他の地元の民族や宗教の関係者間の現場での長い歴史的な出合いを探求します。

査読付きの学術誌に 3 つの原稿が掲載される予定であり、さらに 3 つの原稿を提出準備中です。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 2件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Laur Kiik	4. 巻 -
2. 論文標題 Sacred Politics of Chinese Infrastructure: Christians, Buddha's Tooth, Dragons, and Conflict at Myitstone, Kachin, Burma	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Modern Asian Studies	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Laur Kiik	4. 巻 -
2. 論文標題 Cry with the Promised Land: Singing for Nationalist and Religious Environmentalism amid Burma's War	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Ethnomusicology Forum	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 6件/うち国際学会 6件）

1. 発表者名 Laur Kiik
2. 発表標題 Political Systems of Highland Burma, Today
3. 学会等名 London School of Economics（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Laur Kiik
2. 発表標題 Kachin Nationalism
3. 学会等名 15th International Burma Studies Conference（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Laur Kiik
2. 発表標題 Kachin environmentalism
3. 学会等名 Cambridge University (online) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Laur Kiik
2. 発表標題 Religion and Myitsone Dam
3. 学会等名 University of Hong Kong (online) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Laur Kiik
2. 発表標題 Water - interdisciplinary approaches
3. 学会等名 University of Tokyo (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Laur Kiik
2. 発表標題 Violence in Kachin
3. 学会等名 Kyoto University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Laur Kiik
2. 発表標題 Kachin research workshop
3. 学会等名 Chiang Mai University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関